

# 第3回奈良市の地域教育を考える委員会会議録

平成25年3月28日 会議

地域教育課

平成24年度 第3回 奈良市の地域教育を考える委員会 会議録	
開催日時	平成25年3月28日(木) 15時30分～17時00分
開催場所	奈良市役所中央棟6階第1研修室
内 容	<p>○ 開 会</p> <p>1 中室教育長あいさつ</p> <p>2 議事</p> <p>① 奈良市地域教育推進事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域で決める学校予算事業</li> <li>・ 放課後子ども教室推進事業</li> <li>・ 第2回「交流の集い」</li> </ul> <p>② 小部会からの報告について</p> <p>3 その他</p> <p>○ 閉 会</p>
出席者(委員)	岡田龍樹委員 月出(佐野)万里子委員 竹村健委員 畑中康宣委員 藤田正博委員 魚谷和良委員 北田和美委員
(担当部局)	中室教育長 福岡教育総務部長 北学校教育部長
(事務局)	西崎教育総務部次長 石原子ども未来部参事 林地域教育課長(事務局長) 松本教育支援課長 山下子ども育成課長 山岡子ども政策課長 亀井学校教育課課長補佐 地域教育課から6名
開催形態	公開
担 当 課	地域教育課

## 議 事 お よ び 協 議 内 容

### ○ 開会

#### 1 中室教育長あいさつ

本日は、年度末の大変お忙しいところ、第3回奈良市の地域教育を考える委員会にご出席いただき、ありがとうございます。

日頃より、奈良市の教育行政にご理解とご協力をいただいておりますことに対し、心から厚くお礼申し上げます。

本市では、平成23年度より「奈良市地域教育推進事業」として、「地域で決める学校予算」と「放課後子ども教室」を二本柱に、「地域全体で子どもを守り育てる体制づくり」を進めてまいりました。これは、奈良市の教育ビジョンの柱にしております。

地域で決める学校予算は、3年が経過し、地域教育協議会を中心に、中学校区としてのまとまりができるとともに、学校と地域の連携が進み、協働した取組が充実してきたように感じています。

また、放課後子ども教室は、本年度より全ての小学校で開設することができ、小学校の運営委員会が中心となり、地域の方々に支援いただきながら、学習、交流、体験の機会が増えたことで、子どもたちが安心して活動する場ができたように思います。

また、2月9日（日）には、防災生徒総会を市で初めて開催いたしました。東日本大震災の被災地に、子ども、地域の方、教員が外向き、子どもと交流し、奈良市に戻ってきて、自分たちがどんなふうに関わりを考えるかを、全ての中学校で生徒総会を開いて発信しよう、ということです。その中で、文部科学省の広田調査官や、石巻市雄勝中の元校長佐藤先生が、「奈良市の子どもたちは、『地域の人たち』という言葉が非常に多く使う。」と評価しておられた。子どもの意識の中に地域の皆さんの姿が少しずつ定着している表れかと考えている。

このように、多くの成果が見られる一方で、学校における教職員の理解が進まないことや、地域教育協議会組織が地域へ浸透していないなど、課題も明確になってまいりました。

本日の委員会では、地域教育推進事業を一步前に進めていくために、何をしなければならないのか、取組の方向性など、様々な立場より忌憚のないご意見をいただければと思っています。

地域教育協議会が地域コミュニティの核となるよう、地域に定着させてまいりたいと考えているところです。今後とも、本市の事業にご協力を賜りますようお願いいたしまして、挨拶とさせていただきます。

#### 2 議事

岡田会長 年度末の押し詰まったところ、ご出席いただきありがとうございます。本委員会は、運営要領により公開とさせていただきます。また、会議録を作成するため、録音と写真撮影を行いますことをご了承ください。本日の会議録の署名は、私と佐野副会長が行います。本日の会議の傍聴希望はございましたか。

事務局 傍聴希望はございませんでした。

岡田会長 では、議事に入らせていただきます。次第の1. 奈良市地域教育推進事業についての、①地域で決める学校予算事業②放課後子ども教室推進事業③第2回「交流の集い」の説明を事務局よりお願いします。

事務局 (会議資料をもとに事務局説明。) 以上、本年度の地域教育推進事業の概略の報告をさせていただきます。

岡田会長 ありがとうございます。放課後子ども教室の、平成19年から平成23年までの5年間のまとめ、地域で決める学校予算事業も、執行状況調査で、全校区をまわっていただき、課題と成果のまとめをしていただきました。交流の集いも今年で2回目になります。それまでは成果報告会という形で行われていたものですが、昨年度よりコーディネーターさんを中心に、自分たちでより積極的にということ、実行委員会形式で行われ、参加者も順調に増え、成果もあげてきているという報告でした。何かご質問ございますか。

全般的に人材が必要だという課題はあるのですが、成果は数値としてもあがってきている。また成果があるからより人材が求められているということです。教育長から、子どもたちが「地域の方」をよく口にするようになりましたが、地域の方も子どもたちと接し、子どもたちの成長を実感しているのではないかと。執行状況調査の時も、地域の方に参加していただき、地域の方からも子どもと接した感想があがっていたという報告でした。よろしいでしょうか。それでは、平成24年度の地域教育推進事業の取組をご了解いただいたということで、進めていきます。私も熟議を拝見させていただき、大変熱気があり、盛り上がってきたなーという感想を持ちました。期待している成果も上がってきつつあります。この委員会で、次にどこを目指したらよいかをもう一度根本的に振り返ってみようということで、前回の委員会で、小部会を立ち上げ、今後の地域教育の方向性を整理し、提言としてまとめよう、ということになりました。その小部会で議論をした結果が、素案としてまとめられております。次第の2番になりますが、小部会の報告を事務局よりお願いします。

事務局 考える委員会ではこれまで、共通理解を図るということをメインに考えてまいりました。しかし、共通理解だけでは前に向いていかない、ということもあり、前回の考える委員会で、一つの方向性という形で、提言としてまとめていければということでしたので、3月7日に小部会を設置させていただきました。会長、副会長と、藤田委員、畑中委員、新免委員が、地域、家庭、学校それぞれの立場から、意見交換をしていただき、提言を素案という形で、まとめさせていただきました。これまでの経過を1枚目で説明しております。裏側に提言を5項目にまとめてあります。(提言を読み上げる形で説明。)この提言を、次年度の事業の説明の中に盛り込んでいきたい。

岡田会長 (提言を復唱し確認。)この委員会から提言させていただき、めざすところを見える化しようということです。中身についてご意見はございますか。この委員会が提言するのですが、市民や活動している方への提言であり、行政への委員会からのアピールです。提言のあて先はありませんが、この委員会から発信し、行政にも提言の内容を促進するよう支援していただき、活動参加者にも、学校の先生方、公民館の職員にもめざすところを明確にするという意味合いです。

魚谷委員 先日の交流の集いに行かせていただいた時に感じたことですが、個々の校区で充実し

た活動が行われ、成果があるのはわかりますが、限られた地域の人々が中心だ。一般の人に、交流の集いや、地域と学校、子どもたちが連携して活動していることの実感が伝わりにくい。そのあたりの広報が課題ではないかと感じた。提言の4、5あたりが最も大事ではないかと思う。中部公民館は立地が良かったのに、行政の方も含め、ほとんどの方が知らなかった。会場の中では熱がこもっているのに、外には伝わってこない。一つの方法だけでなく、いろんな方法で広げていくのが大事だ。提言5の地域資源を活用した事業ですが、今までも地域の資源を活用して製品をつくるという事は行われていたのですが、逆に、地域の祭りごとや、事業所、自治会等へのつながりを求めていくことが、地域の特徴が出せ、よいのではないかと思う。

岡田会長 一つは広がっていく手がかりとして公民館をとということで、公民館も交流の集いのパネルをしばらく展示していただくということで、協力していただきます。5の地域との関わりということですが、今まで組織づくりに焦点が当てられてきた。組織ができると組織の中だけの議論になってしまい、広がりがないので、地域のいろんな方からの意見をとりこんで、それを実現するためにはどうしたらいいんだろうと考える等、幅広い意見を聞きとるようなことも考えていくことが必要かもしれないですね。

魚谷委員 椿井小校区には、餅飯殿商店街があり、おん祭りの「大宿所」がある。12月15日に大宿所祭といっておん祭りに先立っての行事がある。そこで、昔から伝わっている歌を、椿井小学校の子どもたちが、大宿所まで出てきて歌ってくれる。いろんな人がいる中で歌うことが子どもたちにとって良い経験となる。ちょっと外へ出て、今までと違う交流、経験をすることが、本当の意味でのつながり、連携を深めることになる。

岡田会長 校区内のいろんな組織、活動とリンクして広げていく。この事業も始まって5年になります。小学生、中学生で地域と共に活動していた子どもたちも高校生になって地域にいる。このような若い人たちの意見も取り入れていったりして、斬新な広がりを図っていくことも必要ですね。

畑中委員 先ほどの放課後子ども教室の成果と課題というところにもあったのですが、先日校区の運営委員会に出席した時、コーディネーターや保護者の方が、子どもらは本当に楽しそうに遊ぶなあ、あの顔が本物やな、という声を聞くと、本当にありがたいと感じた。内容をどうしていくか、いろんな小学校の中の意見を聞いて、市P連の中でも、情報交換をしていきたい。保護者の参加が少ないということには、学校ホームページやPTAの広報紙に載せるなどして、連携を深めていきたい。市P連のまとめで、教育委員会への要望もまとめていくのですが、特に幼・小では、地域で決める学校予算はありがたいのでぜひ継続してほしいという意見が多かったです。小学校部会では、放課後子ども教室とPTAの関わりを、教育委員会に説明してほしいという意見もある。また、小学校間でばらつきもある。小学校部会や各PTAの中で放課後子ども教室のことを話題にして、ばらつきをなくし、市P連全体の共通理解を図っていきたい。

岡田会長 保護者の方々にも活動は伝わりにくい。

竹村委員 伝わりという点では、校区の中での伝わりが弱い。交流の集いにも行かせてもらったが、知っている人知っているが、まわりの人は知らない。地域の方にも、各団体にもほとんど伝わっていない。一部で勝手にやっているという感じがする。広報に力を入れる

べきだ。やっていることは一生懸命で進歩的なことと言うことなしなのだが、PTAすら知らないという弱さがある。地域担当教職員がどこまで理解を深めているかという問題もある。もう少しそこらに力を入れて進めるべきだ。

北田委員 地域で決める学校予算事業のおかげで、ボランティアさん、コーディネーターさんが来られて、先ほどの成果にもあったように、子どもたちがいろんな方と接することによって、コミュニケーション力も育ってきていると思います。PTAの理解という点ですが、事業の説明はPTAにも話すのですが、実際に動くのはPTAの役員さんや支援の方だけなので、全体の理解という意味ではいまひとつなので、もっと啓発していきたい。また、地域担当教員を置くという点に関しては、幼稚園は人数が少ないので、難しい面もある。幼稚園職員全体で理解をしてもらえるように話をし、みんなで取り組んでいきたい。

岡田会長 学校種によっては難しい。幼稚園は保護者とのかかわりは深いように思う。

北田委員 毎日送り迎えしてもらえるので、保護者との関わりは確かに強い。ホームページに載せるなどして、こんなことをしている等、できるだけ詳しく広報していきたい。

藤田委員 私は、地域で決める学校予算に関わって丸3年になるが、事業は、上昇・進歩してきている。提言を考える小部会にも参加したが、この提言に基づいて進めてほしいと思っている。一点問題と感じるのは、会計に関してはもう少し柔軟性を持ってほしい、ということだ。また、会計担当者のレベルの問題もある。うちの協議会でも、チェックを受けて付箋がいっぱいで返ってきた。市の方で、会計面の使い道について等、もっと詳しく説明していただきたい。

岡田会長 コーディネーター研修で、お金の使い方、会計の組み方等も講習の中身に加えていただければいいではないかと思う。

佐野副会長 事務局から説明がありましたが、提言4の公民館との関わりに関して、交流の集いで展示された各協議会のパネルを、4月末まで公民館に展示しています。地域の方の目に触れるだけでなく、公民館職員は13校区で協議会に関わっているのだが、その他の地域でも、今度の展示をきっかけに、協議会の取組に協力していきたい。提言5の地域資源を活用する事業を展開していく時も、公民館とタイアップして、場所、人等を発掘するのに、共に取り組んでいきたい。今度の展示でまず一歩踏み出しました。協議会だよりやボランティア募集チラシも出しておられるので、公民館に常時置いていけるように取り組みたい。

岡田会長 かなり定着してきた事業ですので、それぞれ組織の足腰ができてきていて、広報の面でも、資源の面でも、地域に広げていくという方向性が必要になっている。そのためにも、場所があったりとか、先生の理解も得られたり、保護者の協力も得られたり、公民館の活用もしながら、外へ向かっての取組を、これから1年間かけて地域教育協議会で取り組んでいただきたいという提言をまとめました。いろんな人の意見を取り入れながら、新しい取り組みを発展させ、そのことによって、新しい人材も発掘されてくると思います。そんなあたりを次年度の目標にして、取組を進めてほしいと思います。他に加えることがあればお願いします。特になければ、まずは、次年度に向けて提言を提起していくことにご了解いただけますでしょうか。ありがとうございます。それでは、小部会で提起させていた

だいた提言の「素案」をとって、提言として提起していきたいと思います。ありがとうございました。その他何かご審議いただくことはございませんか。

藤田委員 小部会のまとめが了解され、今後の方向性が定まったが、行政の担当の方から、平成25年度に向けてこの委員会に望むことを、お聞きしたい。

岡田会長 冒頭の教育長のご挨拶で、非常に期待されているということは、我々もひしひしと感じましたが。

事務局 この委員会には、自治連合会の方、少年指導協議会の代表の方、学校園代表の方、地域の方々等に集まっています。事業に対して理解をしていただき、それぞれの持ち場に持ち帰っていただき、深めていって推進を図っていただければありがたいと考えています。また、市の自治連合会でも、研究会を立ち上げていただいています。この提言も踏まえて、今後の方向性も共に考えていただければありがたいと考えます。行政に対する方向性もご指摘いただき、次年度以降の事業に取り組んでいく委員会にしていきたいと考えております。

岡田会長 地域住民の力をとりいれながら事業に取り組んでいくというのは、教育行政に限らず、行政にとって当然なことになってきています。行政と市民とが協働して活動していくのが今めざされているのですが、行政主導の事業と市民主導の自立した事業が一緒に行う。行政が積極的に働き掛けて主導すると、地域もそれにこたえて主体的に動く、または、行政から声をかけ、市民を育てるといふかエンパワメントしていく、というような活動をうまくやると、市民活動も活発になる。地域が活発になっていくと行政の役割が終わるのではなく、行政が市民の後押しをしていくことが必要です。逆に、委員会から行政に、地域学校連携事業に関して、多大な人的、財政的支援をお願いしたい。ありがとうございました。

○ 閉会

- ※ 資料
- ① 平成24年度第3回奈良市の地域教育を考える委員会次第
  - ② 平成24年度第3回奈良市の地域教育を考える委員会開催要項
  - ③ 奈良市地域教育推進事業へ発展的な取組に向けた提言（素案）
  - ④ 平成24年度第3回奈良市の地域教育を考える委員会会議資料

平成 年 月 日

署名委員

---

署名委員

---